

「つながり」を大切にしたE S Dの授業作り

東広島市立入野小学校

1 取組の概要

本校では、様々な教育活動から取り出されるE S Dのエッセンスを基に、生活科と総合的な学習の時間を中心に教科横断的なアプローチを行っている。活動を進める上で、児童の学びの土台となっている「ふるさと」をキーワードと考え、E S Dのテーマを「ふるさと入野に思いを巡らし、ふるさと入野の将来を考える子どもの育成」としている。ふるさとを教材とした持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けることを通して、ふるさと入野に対する親しみと愛着を高めるとともに、みんなが幸せに暮らすためによりよく行動していくことを目標としている。

E S Dのカリキュラムを作る際に大切にしているのが「教材のつながり」「人のつながり」「能力・態度のつながり」である。学校教育目標を受けて、教職員全員で児童の実態把握を行い、目指す子供像を設定した上で、本校におけるE S Dの目標を設定し、その上で、育てようとする資質・能力、学習内容を定めている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、「生活科・総合的な学習の時間の系統表」を作成し、学年間のつながりを意識した単元作りを行っている。4年生では、「くらしと環境」を大テーマとし、「ごみ」「水」「エネルギー」の問題から環境問題について考え、地域の環境を守るために自分たちができる活動について保護者や地域に呼びかけたり、自分たちで実践したりしている。その後、これまでの5年生の活動報告を受け、4年生後半から地産地消の取組を進めている。それを受け、5年生では、「食と環境」を大テーマとして、食料問題について考えを深めていく。野菜作りや米作りを通して、自分たちが地産地消を進めるとともに、地産地消が進まない原因について考え、地産地消を広げる活動に取り組む。学校全体でもこどもエコクラブの一員としてスクールエコ活動に取り組み、環境問題に対する意識を高めている。

(2) 指導のポイント

☆本単元がE S Dのどの構成概念と関連があるかを明らかにするために、E S D学習指導題材アイディアシートを活用し、単元作りに生かしている。

☆本校が設定したE S Dの3領域（自然環境・エネルギー、多文化、キャリア）ごとに育てようとする資質・能力の一覧表を作成し、それを基に単元の目標を設定している。

- ・地産地消について調べたことを整理、分析する活動を通して、環境を守り健康な生活を維持・向上させていく食料生産のあり方を考えることができる。(付けたい力1)
- ・国土の環境保全と地産地消との関わりを調べ、相手を尊重しながら協同的に課題を解決しようとする。(付けたい力2)
- ・地産地消の取組を通して環境保全について関心を深め、地域の一員として自分たちの生活と結び付けながらその解決策を考え、進んで実践することができる。(付けたい力3)



(E S D学習指導アイディアシート)

3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は、総合的な学習の時間に行う。地産地消に関するアンケート調査（消費者意識）を基に、地産地消を通して、食料生産の問題について多面的に考えさせる。

(1) ねらい

地産地消が進まない原因を話し合うことを通して、「食と環境」に関する様々な問題点があることを知り、自分たちができることを考えることができる。

(2) 対象学年 第5学年

学習活動	指導上の留意事項	評価
<p>1 児童の考えとの「ずれ」から、本時のめあてに導く。 「なぜ、地産地消の意識が高くないのだろう？」 「地産地消を進めるためにできることはないかな？」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地産地消の取組をもっと進めるために自分たちができることを考えよう。</p>	◎家の人のアンケート結果を提示し、地産地消に対する意識があまり高くないことを知らせる。	
<p>2 地産地消が進まない原因を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入品の方が安いから。 ・地元産だけでは、種類が少ないから。 ・地元産のものが置いてある店に行かないから。 ・地産地消が環境に良いことを知らないから。 ・農業をする人が減っているから。 <p>3 自分たちでできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入品に比べて地元産の方が安心・安全、新鮮であることを知らせる。 ・安全面から輸入品より地元産を買うように家の人に進める。 ・旬の食材の良さを伝え地元産を少しでも使ってもらおう。 ・買い物に行ったら地元産のコーナーに行ってみる。 ・地元産のものを置いてある店を消費者に知らせる。 ・地産地消が環境によいことを知らせて、未来のために協力してほしいとたくさんの人に伝える。 <p>4 本時を振り返り、次時につなげる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">[児童の振り返り例] 一人でできることやみんなでできることがある。食と環境を結びつけてアピールするなど、自分たちができることをしていく。もっと広い地域に呼びかける方法も考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったこと、自分の考えが変わったこと、新たに疑問に思ったことなどを書く。 	◎地産地消について調べた資料をもとに原因を考えさせる。 ◎児童から意見が出なかった時に提示する補助資料を用意しておく。 ◎地産地消の取組や食に関する資料を新聞やインターネットで集めておき、自分たちができることを考える参考資料とする。 ◎「実現できる」「実現できない」「個人で」「集団で」の四つの観点から座標軸を使って考えさせる。	◇地産地消が進まない原因を多面的にとらえ、自分ができることを考えている。(発言、ワークシート)
	◎次の学習では、入野だけでなく市全体に地産地消の取組を広げていくために、もっと広い地域に呼びかけていくことを確認する。	

4 児童の反応（授業後の感想等）

- 輸入をしなければいいという意見があったけど、輸入をすべてなくすことはできない。食料は国内だけではまかなえないから。日本国内での食料生産と輸入のバランスを考えていかなければならない。
- 地産地消は地球温暖化を防ぐことになり未来の環境を守ることができる。日本だけでなく世界のためになるので、世界の人と協力しないとイケない。
- 東広島市での問題は、耕作放棄地が増えていることだ。耕作放棄地を減らしていくことを考えていきたい。